

新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



2020 年春号

—新型コロナウイルス感染症の拡大とがんセンターの役割—

新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭



平素より当院との病診連携に際して多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大のニュースが連日取り上げられています。新型コロナウイルス感染症のピーク時には県内で約4000床の病床が必要と推計されています。患者の爆発的増加や医療従事者の感染によって救える命を失う医療崩壊を防ぐために、各医療機関の役割分担と連携が一層重要となります。当院では院内感染を防止し患者の安全に配慮しながら、職員一丸となってがん診療を継続しております。

がん治療は新型コロナウイルス感染症と比べれば“急”ではないかも知れません。

しかし、“必要”であることに疑う余地はありません。当院は都道府県がん診療連携拠点病院であり高度・先進的ながん医療の提供が求められています。希少がん・難治がんを対象にがんゲノム医療を用いたより精密な個別化医療がそのひとつです。

2016年より新潟大学医歯学総合病院と連携して遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)外来を立ち上げ、がんゲノム医療の導入に取り組んできました。2020年4月からHBOC患者が予防的にがんのない方の乳房や卵管・卵巣を切除する手術に公的医療保険が適応されます。HBOCの乳がんの生涯発症リスクは46～71%、卵巣がんのリスクはBRCA1遺伝子変異をもつ場合は41～46%、BRCA2遺伝子変異をもつ場合は17～23%と言われています。予防的乳房切除術により乳がん発症リスク、また、予防的卵管・卵巣切除術は卵巣癌／卵管癌／腹膜癌の発生リスクと死亡率を低減させます。

ゲノム情報や蛋白質のプロテオームなどの各種バイオマーカーを使って、個々の病的状態を予測し、疾患が発症する前にその人に合った対策を立てるという手法が先制医療です。予防的乳房、あるいは卵管・卵巣切除術はがんの一次予防、先制医療という治療の新しい選択肢です。がんゲノム医療によって、さらに精密な個別化医療が臨床で行われる時代に入ったとも言えます。

当院は今後も都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を果たしていきます。先生方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



新任のごあいさつ

副院長 小林 正明



日頃より皆様には、当院との地域医療連携においてご協力いただき、心より御礼申し上げます。私は、この4月1日付けで、副院長を拝命いたしました、内科（消化器内科）の小林正明です。専門は消化器内視鏡で、消化管がんの診断、治療を中心にこれまで診療や研究を行って参りました。また、昨年より引き続きまして、がん予防総合センター長を兼務し、がん検診や、全国および新潟県がん登録の業務を担当させていただきます。

がん全体の中で、消化器がんの占める割合は高く、多くの患者さんをご紹介いただいております。この中で、胃がんと大腸がんには、各種の有効な治療法があり、早期の段階であれば、身体の負担が少ない内視鏡治療で、完治させることも可能です。正確な診断のため、当院では最新の内視鏡機器を取り揃えており、また、大腸内視鏡の挿入が難しい場合には、細径の小腸用スコープを使用して検査を行います。大腸内視鏡検査を希望されない方には、大腸CTやカプセル内視鏡などの選択肢も準備しています。一方、膵臓がんは最も難治であり、迅速で正確な診断が求められます。地域連携・相談支援センターを介してご紹介いただくと、病状に応じて、可能な限り短期間で外来診察や入院治療を手配させていただきます。

地域の皆様と連携を取りながら、質の高いがん専門医療を提供できるように努めて参りますので、これからもご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

事務長 杉山 興



地域の医療機関を始め関係機関の皆様には、日頃から大変お世話になっており、深く感謝申し上げます。事務長として4月に着任しました杉山と申します。改めましてよろしくお願いいたします。

わが国におけるがん医療の進歩は目覚ましく、先日公表されたがんの10年生存率は57.2%で、がんは不治の病からはや治る病気になりつつあるとも言われています。一方で、部位によってはかなり時間が経っても再発リスクがあるなど、まだまだ課題が多いとも言われています。こうしたがん治療を受けながら、患者さんが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくためには、地域の医療機関や保健・介護施設等の関係機関相互の連携がますます重要になってきています。

このような中で、当院は基本理念として「県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。」を掲げ、都道府県がん診療連携拠点病院としての役割を、地域の医療機関等の皆様と連携を深めながら今後も果たしてまいりたいと考えています。私も事務長として、微力ではありますが、事務部門を通して診療部門を下支えし、その役割を果たせるよう努めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

新任のごあいさつ

看護部長 池田 良美



地域の医療機関の皆様には、日頃から当院の事業にご理解、ご協力を受け賜わり御礼申し上げます。この度、看護部長として着任しました池田と申します。宜しくお願い致します。

2025年に向け、地域医療構想の実現に向けた取り組みが行われる中、すでに2040年問題が現実味を帯びています。がん専門病院看護部として、がん看護外来の開設やがん看護専門研修などを企画し、患者さんや地域で活躍される看護職の皆様への対応に努めているところです。また今年度より、地域連携・相談支援センターと入院支援センターの組織を統合し、入院前から退院後の生活までを視野に入れた早期支援ができるよう組織強化を図りました。

地域共生社会を目指し、病院、地域医療機関、介護・福祉保健機関が連携し、住民が住み慣れた地域で最期まで暮らしていける環境を整えるよう努めて参ります。

世界的には新型コロナウイルスの感染が拡大し、首都圏等の非常事態宣言を受け、新潟県内でもさらなる感染拡大が予測されます。対応に追われる毎日ですが、誤解を恐れずに申し上げるのであれば「ピンチはチャンス」であり、がん専門病院として「できること」「しなくてはならないこと」など着実にやっていくとともに、地域医療や地域内病院の機能分化など考える機会にしたいと考えています。

医師退職のご報告 (2020年3月31日付)

診療科	氏名
内科	張 高明
呼吸器外科	吉谷 克雄
整形外科	小林 宏人
放射線科	杉田 公
乳腺外科	長谷川美樹



診療科のご紹介

～呼吸器外科～

医師	卒業年	主な資格
青木 正	1990 年	呼吸器外科専門医 日本呼吸器外科学会評議員
岡田 英	2000 年	呼吸器外科専門医 日本呼吸器外科学会評議員
清水 勇希	2014 年	



【当科の特徴】

1. 原発性肺癌手術数毎年 200 件以上
2. 肺癌に対する完全鏡視下手術を行っている
3. 肺機能温存する手術を行っている
4. 初診時に手術日を決定している

当科で主に扱う疾患は、原発性肺癌と転移性肺腫瘍です。最も多いものは原発性肺癌でおよそ年間 200 例の手術症例があります。次いで多いものが転移性肺腫瘍でおよそ年間 50 例です。

初診時に手術日程を決めますので、患者さんが「いつ手術をしてもらえるだろう？」と不安に思う期間もなくしています。

手術は基本的に完全鏡視下という方法で行っています。これは、胸腔内に胸腔鏡を挿入してモニターで観察しながら直接胸腔内に手を入れずに手術を行う方法です。以前のように筋肉を切ったり肋骨を切ったりする必要のない手術方法ですので、患者さんの術後疼痛は軽減されています。また胸腔鏡システムが 3D で奥行きもわかるために安全に手術が行えます。出血などが原因で途中から手術方法を開胸に変更した手術はありません。

最近では、肺機能を温存する手術にも積極的に取り組んでいます。これまでは肺葉切除という術式が標準手術でしたが、いろいろな知見の積み重ねにより、肺区域切除で肺機能を温存する術式でも根治が得られることがわかってきました。当科では赤外光観察システムを完全鏡視下手術に取り入れて正確な区域間作成を行い区域切除を行っています。

完全鏡視下手術に伴う入院期間は切除肺の大きさによりますが、おおよそ 4 日間から 10 日間です。

医師	卒業年	主な資格
畠野宏史	1991 年	日本整形外科学会専門医 骨・軟部腫瘍医 がん治療認定医
柳橋和仁	2006 年	日本整形外科学会専門医
山岸哲郎	2008 年	日本整形外科学会専門医 がん治療認定医

【当科の特徴】

1. 2020 年 4 月から「骨軟部腫瘍・整形外科」に科名を変更し、これまで以上に骨軟部腫瘍を中心とした診療・治療を行います。2020 年 4 月現在、骨軟部腫瘍を標榜しているのは、新潟県では当科だけです。
2. 骨軟部腫瘍（いわゆる「しこり・できもの・こぶ」）は、年齢、性別を問わず、四肢や体幹などの身体のあらゆる部位に発生し、組織型も多彩で診断が難しい腫瘍です。

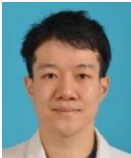
また、炎症や外傷と似たような腫瘤を生じ、区別が難しいこともあります。当科では日本整形外科学会認定骨・軟部腫瘍医が在籍し、骨軟部腫瘍に特化した診断・治療を行っています。

3. 四肢・体幹部の悪性骨軟部腫瘍に対しては広範切除にて根治性に配慮しながら、四肢の温存をはかるとともに、腫瘍用骨補填型人工関節や体外照射骨、in situ preparation (ISP)などを駆使して良好な機能の獲得に努めています。また、化学療法や放射線療法などを他科とも連携しながら行い、質の高い集学的治療を目指しています。
4. 日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、骨軟部肉腫研究会(JMOG)等の全国的な臨床研究にも参画しています。
5. 骨軟部腫瘍は治療可能な施設が少ないため、新潟県だけでなく、県外からお越しいただく患者様も多くいらっしゃいます。
6. 骨軟部腫瘍のほかに、手の外科治療、腫瘍切除後の組織欠損に対する組織再建手術などを扱っています。なお、脊椎外科と一般外傷は原則として扱っておりません。



診療科のご紹介

～婦人科～

医師	卒業年	主な資格
菊池 朗 	1990 年	医学博士（新潟大学） 日本産婦人科学会認定専門医、同 指導医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本臨床細胞学会細胞診指導医、日本人類遺伝学会／日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医
生野 寿史 	2001 年	医学博士 日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医 日本人類遺伝学会／日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医 日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医、母体保護法指定医
堀内 綾乃	2013 年	日本産科婦人科学会専門医
高橋 宏太郎 	2015 年	

【当科の特徴】

- ・ 婦人科腫瘍学会指定修練施設、遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設です。
- ・ 子宮頸癌の術後補助療法として放射線治療科と連携して合併症の少ない強度変調放射線療法を導入しています。
- ・ 子宮体癌の手術療法ではリンパ節郭清の個別化を行っています。リンパ節転移のリスクが低いと予測される場合はリンパ節郭清の省略を、高い場合には骨盤リンパ節に加えて、傍大動脈リンパ節郭清を行っています。
- ・ 卵巣癌の薬物療法には血管新生阻害剤のベバシズマブやポリ ADP-リボースポリメラーゼ（PARP）阻害剤のオラパリブを積極的に使用しています。
- ・ 標準化学療法後に増悪した進行・再発症例にはマイクロサテライト不安定性検査を行い、陽性の場合には免疫チェックポイント阻害剤であるペムブロリズマブによる治療を行っています。
- ・ Precision medicine の時代に対応すべく、遺伝性乳癌卵巣癌やリンチ症候群の遺伝カウンセリング、遺伝子検査、サーベイランスを関連する診療科及び部門と連携して行っています。遺伝性乳癌卵巣癌の遺伝カウンセリングは他院の患者さんも受け入れています、リンチ症候群は現時点では当院で治療を受けている患者さんのみの対応になります。
- ・ 希望する患者さんが最先端の治療を受けられるように、臨床試験や治験に積極的に参加しています。
- ・ 個別化医療や最新医療の提供するために一番大切なことはチーム医療と考えています。週 1 回の検討会に加えて、毎朝 short meeting を行ってチーム医療の実践に努めています。

地域連携室からのお知らせ

地域連携・相談支援センター 副センター長 櫻井 圭美

平素より当院の運営におきまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、地域連携・相談支援センターでも患者様の安全に配慮し院内感染防止に努めているところです。

現在、地域連携・相談支援センターで行っている感染対策についてお知らせしたいと思います。

・がん相談対応について

院外患者さんは、電話相談のみ対応しています。

・両立支援、就労支援一当面の間、出張相談は休止です。再開時期は未定です。

・がん患者会、ボランティア活動一当面の間休止です。再開時期は未定です。

・地域とのカンファレンス一病棟外のスペースで実施します。患者さんとの面会は原則不可。

ご迷惑、ご不便をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



新任のごあいさつ



MSW 上山裕美

4月から地域連携・相談支援センターに配属になりました上山と申します。当院では西3病棟と東4病棟を担当いたします。患者さんやご家族が安心して入院生活や地域での療養生活を送ることができるように、他の職員や地域の関係機関の皆様と連携して業務に取り組みたいですと思っています。

不慣れでご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



MSW 齋藤 陽子

4月より地域連携・相談支援センターに配属になりました齋藤と申します。当院の東6病棟と、西7病棟を担当させていただきます。患者さんの気持ちに寄り添い、お力になれるよう精一杯励んでまいります。

一見クールに見えるかもしれませんが、内側は熱く、柔らかく、がモットーです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域連携・相談支援センタースタッフ



病診連携スタッフ



新潟県立がんセンター新潟病院 令和2年5月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内 科 (金曜Cは新潟大学より)	401診	D 栗原 太郎	A 小方 則夫	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 田中 洋史	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 盛田 景介	A 菅野 智之	A 塩路 和彦	C 土谷 浩気 (AM) C 尾崎 和幸 (PM)
	201診	B 下川路伊亮		B 梶原 大季		B 馬場 順子
	新 患 (医師2名 隔週交替)					5/1 A 栗田 B 梶原
		5/4	5/5	5/6	5/7 A 盛田 B 馬場	5/8 B 下川路 A 塩路
		5/11 F 谷 B 三浦	5/12 B 小山 D 石黒	5/13 A 青柳 E 大山	5/14 D 廣瀬 C 大倉	5/15 B 梶原 A 栗田
		5/18 A 小林 F 谷	5/19 A 菅野 D 栗原	5/20 D 今井 B 田中	5/21 B 馬場 A 盛田	5/22 A 塩路 B 下川路
		5/25 B 三浦 A 小林	5/26 D 石黒 B 小山	5/27 E 大山 A 青柳	5/28 C 大倉 D 廣瀬	5/29 A 栗田 B 梶原
		A : 消化器 B : 呼吸器 C : 循環器 D : 血液 E : 内分泌 F : 糖尿病				
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	阿部 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診		第3週専門外来(14:00~)	細貝亮介	専門外来(PM)	阿部 咲子
* 新患は紹介状が必要です。						
乳腺外科 消化器外科	1 診	神林 智寿子(乳腺)	藪崎 裕(胃)	野村 達也(肝胆膵)	瀧井 康公(大腸)	中川 悟(食道・胃)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	瀧井 康公(大腸)	丸山 聡(大腸)	番場 竹生(食道・胃)
	3 診	五十嵐麻由子(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	野上 仁(大腸)	
	4 診	平井裕美子(乳腺)	真鍋 高宏(胃)	高野 可赴(肝胆膵)	阿部 馨(大腸)	田中 亮(食道・胃)
	予防センター乳腺		金子 耕司	五十嵐麻由子	神林 智寿子	神林 智寿子
* 乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器 外科	1 診	予約のみ	青木 正	予約のみ	予約のみ	青木正 (AM10時~)
	2 診		岡田 英			岡田 英
骨軟部腫瘍 整形外科	1 診	第2,4週 畠野	山岸 哲郎(AM)		山岸 哲郎	柳橋 和仁 1,3,5週 畠野 2,4週 山岸
	2 診	柳橋 和仁			畠野 宏史	
* 完全紹介制です。						
脳神経内科 (新潟大学より)		中島 章博		二宮 格		
精神科 (午前のみ)			小林 真理		小林 真理	小林 真理
* 当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。完全紹介制・完全予約制です。						
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫 (4週のPM)
婦人科	1 診	生野 寿史	菊池 朗(AM)	菊池 朗	生野 寿史	堀内 綾乃
	2 診	高橋 宏太郎	堀内 綾乃	生野 寿史	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・山口)	高橋 宏太郎(AM)
	3 診	予約のみ	笹川 基 (AM)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	菊池 朗(予約のみ)	予約のみ
皮膚科	1 診 (主に新患)	高塚 純子	佐々木 仁	竹之内 辰也	松井 悠	高塚(1,3,5週) 佐々木(2,4週)
	2 診 (主に再来)	佐々木 仁	竹之内 辰也	佐々木(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	松井 悠	松井 悠	松井 悠	佐々木 仁	松井 悠
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	長谷川 素	斎藤 俊弘	斎藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	結城 恵理	小林 和博	結城 恵理	長谷川 素
* 新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(AM)	佐藤 敬子(AM)	佐藤 敬子(AM)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎(再来)	富樫 孝文(新患)	予約のみ	佐藤 雄一郎(新患)	鎌田 悠志(新患AM)
	2 診	西條 幸平(新患)	西條 幸平(再来)		富樫 孝文(再来)	
	3 診	富樫 孝文	鎌田 悠志		西條 幸平	
* 新患は紹介状が必要です。						
放射線 治療科	1 診	鮎川 文夫	金本(杉田)	鮎川 文夫	鮎川 文夫	鮎川 文夫
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3 診	金本(杉田)	鮎川 文夫	金本(杉田)	金本(杉田)	金本(杉田)
* 木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1 診	富田 美佐緒	富田 美佐緒	富田 美佐緒	高松(1,3,5週) 富田(2,4週)	高松 美砂子
	2 診	渋江 智栄子	高松 美砂子	渋江 智栄子	渋江 智栄子	渋江 智栄子
	術前	高松 美砂子	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇
完全予約制です。						
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	AM/PM	本間 英之	中島 真人	本間 英之	中島 真人	松本 吉史
		* 当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。 * 原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。				
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		AM/PM	AM/PM	AM/PM	AM/PM	AM/PM
* 当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話：025-234-0011)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

T E L : 025-234-0011 FAX : 025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL : <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます